

令和8年度 第2回 八戸市子ども・子育て会議 議事録

【概 要】

日 時	令和8年8月21日（金）13時30分
場 所	SG GROUP ホールはちのへ 会議室1・2・3（八戸市公民館）
出席委員	【出席】 坂本 美洋 委員 関川 幸子 委員 根城 隆幸 委員 出貝 幸浩 委員 正部家 朱美 委員 土屋 隆治 委員 田頭 初美 委員 上ノ山 健志 委員 小川 和子 委員 吹越 健司 委員 平間 恵美 委員 米田 親弘 委員 高橋 さつき 委員 小池 智彦 委員 計14名 【欠席】 田畑 芳幸 委員 加藤 宏明 委員 佐々木 裕美 委員 細越 亜起子 委員 計4名
事務局	こども健康部：保坂部長、夏井こども・子育て政策推進監 こども未来課：和島課長、川村副参事（企画GL）、小田副参事（保育GL）、 尾崎副参事（認可監査GL）、佐々木副参事、木村主幹、新山主査 子育て支援課：間副理事兼課長、外川副参事（家庭支援GL） こども家庭相談室：久保室長、渡部副室長（女性支援GL）、 戸田副参事（こども家庭支援GL） すくすく親子健康課：田中館副理事兼課長、冷水副参事（保健医療GL） 教育指導課：柳谷課長 こども支援センター：大久保所長
関係課	学校教育課：石丸課長、中嶋主幹
案 件	報告案件 ○次期八戸市保育施設整備計画について ○令和8年度の新たな取組等について ・子育て相談AIチャットボット事業（実証実験）について ・東京海上日動あんしん生命保険株式会社との連携事業について ・（仮称）育児ヘルパー事業について ・校内教育支援センター支援員配置事業
結果概要	上記案件について説明し、出席委員全員の了承を得た。 （以下、議事詳細）

【議 事】

司 会

只今より令和8年度第2回八戸市子ども・子育て会議を開催いたします。
本日は、田畑委員、加藤委員、佐々木委員、細越委員が所用のため欠席されておりますが、半数以上の出席であり、八戸市子ども・子育て会議条例第7条第2項の規定により、会議が成立していることを御報告いたします。

司 会

それでは、会議に入ります。

当会議条例第7条により、会議の議長は、会長が務めることとなっております。坂本会長に、御挨拶をいただき、引き続き議事の進行をお願いいたします。

会 長

(あいさつ)

会 長

それでは議事に入ります。皆様の御協力をいただきまして、円滑に議事を進めて参りたいと存じますので、よろしくお願いいたします。

本日は、報告案件となります。

はじめに、「次期八戸市保育施設整備計画について」、事務局より説明願います。

こども未来課

(資料に基づき説明)

会 長

ただ今の説明に対し、御質問・御意見等ございませんか。

(質問・意見等なし)

会 長

次は、「令和8年度の新たな取組等について」となります。

はじめに、「子育て相談AIチャットボット事業（実証実験）について」、事務局より説明願います。

こども未来課

(資料に基づき説明)

会 長

ただ今の説明に対し、御質問・御意見等ございませんか。

委員A

このシステムの匿名性について伺いたいと思います。ホームページに載っているものなので、利用者の情報は取得できないと思うのですが、どの程度のものでしょうか。

例えば公式 LINE であれば、誰が返信しているというのは管理者の画面上で確認できると思うのですが、匿名性について気にかかります。

	また、資料記載の質問の入力フォーム例を見ると、ある質問に対して『市の施設はこういうところがありますよ』と返答があって、すごく分かりやすいと思うのですが、気軽に相談できるというところで、対応できる相談の幅や、その相談に対して生成AIがどこまで答えられるのかについて疑問に思うので、どの程度を想定されているのかをお聞きしたいです。
こども未来課	匿名性についてですが、特に個人情報を取得するようなシステムにはなっていませんので、どなたが質問したかは分からない形になっていると思います。 回答内容ですが、ホームページの内容を要約して答えるというのが主な機能となっています。今まさに回答内容の検証をしているところです。 足りない情報があれば学習データとして追加していきまして答えられるようにしていくという仕様となっています。
委員A	ありがとうございます。それであれば、こういったことを相談したいという内容に基づいて、例えば夜間にそういう質問や相談があった時に、平日のこの時間にここの窓口で連絡をもらえると相談対応できますというような案内が提示されるような形でしょうか。
こども未来課	はい。質問の仕方などによりますが、連絡先が出るなど、そういった回答になることもあります。
委員A	なるほど。自分はどういう場面で使うかと思ったときに、こういうことを相談したいのですがと質問した場合に、その窓口はこども未来課とかどこそこの課とかどこでもいいですよみたいな答えであれば、どうすれば良いのか再び迷ってしまうと思いますので、そのような点がこの検証の期間にもう少し明快な回答になることを期待しています。以上です。
会 長	その他、委員の皆様から、御質問・御意見等はございませんか。 (質問・意見等なし)
会 長	次に、「東京海上日動あんしん生命保険株式会社との連携事業について」、事務局より説明願います。
こども未来課	(資料に基づき説明)
会 長	ただ今の説明に対し、御質問・御意見等ございませんか。

	(質問・意見等なし)
会 長	次に、「(仮称) 育児ヘルパー事業について」、すくすく親子健康課より説明願います。
すくすく親子健康課	(資料に基づき説明)
会 長	ただ今の説明に対し、御質問・御意見等ございませんか。
委員B	利用する側として想定した時に、このように訪問して助けてほしいと思うときは、「今日助けてほしい」みたいなことがあると思います。 けれども基本的には1週間前に予約して、誰が派遣されるのかを事業所間で決定するというのが恐らく必要な作業であると思うのですが、「今日使いたい」というような予約に対しては、どのような対応になっていくのかというのをお聞きしたいです。
すくすく親子健康課	現段階での想定ですが、まず事業開始にあたって、利用者が今、何を希望しているかという支援プランなるものを、求めていることにきちんと答えていくために、どういうサービスを求めているのかという部分について、申請者と事業所が一緒にすり合わせるが必要で、「今日すぐに、初めて利用したい」という要望への対応は現実的には厳しいかと思います。 利用者が何を求めている、そのことに対してどうお返すかということを経営者と丁寧に確認しつつマッチングしながら、事業の方を進めさせていただきたいというのが、今日現在の回答でございます。
委員B	御回答ありがとうございます。では介護を受けるような感覚で想定すればよろしいでしょうか。この方は要件を満たしていて、育児ヘルパー事業の支援を受けられる人は市の方で基準があって、例えば産後4か月未満の子どもがいるから支援が必要と認められるというので「あなたは受けられますよ」という出発点から、支援計画みたいなものを相談して、例えば夕方子どもがいっぱいいる時に一緒に手伝ってほしい、週2回は来てほしいというようにプランを作ってやっていくという形ですか。
すくすく親子健康課	現在、各事業所と打ち合わせて、どのようなサービスであれば提供できるか、事業所ごとにも特性がありまして、そこに合うような形でマッチングするということも検討しているところでありますので、今いただいたご意見を参考にさせていただきながらやっていきたいと考えております。

委員B	ありがとうございます。 これが形になったらすごくいいなとは思いますが。また事業所というのは個人という形ではなくて、組織としてちゃんと運営しているところとの契約になるイメージで捉えておきます。
会 長	その他、委員の皆様から、御質問・御意見等はございませんか。
委員C	ファミリーサポートセンターが今もあると思うのですが、そちらこの育児ヘルパー事業の住み分けはどうなるのでしょうか。未就学児という記載が資料にはあるのですが、今後に事業が始まったときに、一般市民の方がファミサポと育児ヘルパー事業の違いは何だろうかと疑問に思ったときに、上手に説明する想定は今のところございますか。
こども健康部	御質問のありましたファミリーサポートセンターですが、地域において提供会員と依頼会員に基づく助け合いの仕組みになっているのですが、基本にお子様の面倒を見てくださるというのがファミリーサポートセンターで、家事などはやることができない事業となっております。 そこで今、保護者の方々からニーズのある家事や育児に関してもお願いできれば助かるという声を反映した事業が育児ヘルパーということで、そこが住み分けとなっております。なので、併用というのも可能だと考えておりますが、今は詳細は検討中でございます。
委員C	ありがとうございます。もしかしたら支援が必要な方はファミサポと育児ヘルパーを併用とか、あるいは今日はファミサポに、明日は育児ヘルパーにとかそういうことも想定されるとすれば、その情報がしっかりと子育て家庭に届くようにしていただければ良いと感じましたので、よろしくお願いいたします。
会 長	その他、委員の皆様から、御質問・御意見等はございませんか。 (質問・意見等なし)
会 長	次に、「校内教育支援センター支援員配置事業」について、教育指導課より説明願います。
教育指導課	(資料に基づき説明)
会 長	ただ今の説明に対し、御質問・御意見等ございませんか。

委員D

校内教育支援センターが増えることは大変いいことだなと思っています。普段、私も不登校の相談事業をやっていますが、やはり小学校の低学年の親御さんの相談がすごく増えています。特に1年生、2年生の不登校が、以前に比べると相談件数もすごく増えています。理由はいろいろあって、分からないことも多いですが、ただ、校内支援センターを設けましても、今の説明にあった通り本当に人手不足です。センターを教室に設けても、そこに人がいなければ結局は役に立たないものではありませんが、やはり校内支援センターは学校の中にできれば必ずあって、そこに本来であれば教員の免許を持った先生やOBの方がいらっしゃるのがベストかもしれませんが、あるいは地域の大人の方たちがそこに受け皿となれば、勉強ではなくても心のケアは周りにいる大人でもできると思います。ですから、校内支援センターを学校の中の対応だけに頼っていては、これから広がりを見せる可能性はとても少ないと思うので、その運用のあり方、内容のあり方、ケアのあり方をもっと広い視野で考えていって、この運用を考えたほうがいいのかなど感じています。

それに他県の事例もありまして、今は不登校の理由が昔とはやはり違っています。特にドクター、病院の先生方の目線のアドバイスがすごく必要だということを、私たちも感じているところです。東京の町田の事例だと思うのですが、小児科の先生方が今回この学校の不登校に本腰をあげまして、校内支援センターに配属なされた先生のためにドクター目線でアドバイスする仕組みをきちんと構築しまして、校内支援センターにいる先生を通して医療面においても、子どもにとって必要な助言がきちんと的確に受けられるシステムを構築するような新しい事例をやっていると聞いています。

不登校は八戸だけの問題ではないと本当に思いますので、ぜひとも、お忙しいかとは思いますが、全国の校内支援センターの運用の仕方の事例を探っていただいて、子どもたちが少しでももっと楽になり、多くの子どもたちが安心して学校に通えるような、そういう取り組みをぜひとも調べてみながら進めていただければ大変助かります。これからは校内支援センターがどの学校にも配置されることを大いに願っております。以上です。

会 長

その他、委員の皆様から、御質問・御意見等はございませんか。

委員E

せっかくですので、私が今行っている新井田小学校に校内支援センターが入っていますので、その状況について、教育指導課を応援する意味でもお話しできればと思っています。

まずは不登校の状況ですが、この資料にある通り小学校でも不登校がかなり増えてきています。特にコロナ禍を経たからの増え方は尋常ではないと学校では思っています。

その中でも親自体も子どもを学校に行かせることに意欲を持たないとい

う家庭がかなり増えていると感じます。そういう家庭は、子どもたちも完全不登校になって、親と一緒に朝までゲームをしたりだとか、親と一緒に朝から寝るだとか、現状、本校にもそういう家庭が本当にいます。

そういう中でも学校として、そういう保護者ともまずは繋がりを持ちながら、やっぱり一番手を差し伸べたいのは、学校に何とかして行かせたいと悩んでいる親御さんであると思っている中、学校の現状としては、これも資料に記載の通り教員不足があります。本校も市内では一番大きい小学校ですが、先生が1人や2人病気とかで休むと、もう教頭であったり教務主任だったり学級に行くことで、職員室がほぼ空く状態です。でも、こういう子たちを何とか学校に入れたいということで、これまで本校がやってきたのは、何とか学校には呼ぶ、入れる、保健室は空いているか、いや今日は無理だな、じゃあどこに行くか、校長室に来るか、いや校長が出張でいない、どうするか、じゃあ職員室のちょっと後ろの方で事務さんに見てもらったりだとか、そういうことをやっているのが、恐らく支援員がいない学校の現状だと思います。

そういった中で、本校に支援員が配置されるということで、そういう親御さんに連絡したらぜひ、ぜひ、ということで、実はもう配置される前から、予約ではないですが、6、7名の保護者の方から依頼がありました。

来た後に一番の利点だと実感したのは、やはり常に同じ方が繋がりを持って接してくれることです。それによって、これまで週1回しか登校できなかった子どもが、週2回、3回、登校できるようになることもあり、7月からの配置から1カ月も経ってない状態ですが、そういう状況が本校でも見られていますので、この事業の頼もしさを本校で感じている状況です。ということは裏を返せば、支援員が配置されてないほかの学校の苦勞している実態が浮かび上がってくるのが、やはり本質というところになります。

会 長

その他、委員の皆様から、御質問・御意見等はございませんか。

委員 F

委員Dさんや委員Eさんと同じように、私も学校にこういう支援センターの支援員がたくさん増えていただければいいなと思っていました。

私の担当している長者中学校にも支援員の方がいらしていただいて、やはり不登校の子が学校に来られるようになってきて出席率が良くなってきているんだよというお話を聞いていました。

ちなみに支援員を配置する学校を決める基準のようなものはあるのでしょうか、お聞きしたいです。

教育指導課

配置している学校については、生徒数であったり、あるいは空き教室の状況を参考にしながら配置しているというところがございます。

委員F

御回答ありがとうございます。

話は少し変わるのですが、先日、デーリー東北の新聞に、六戸町で小学校と中学校と合併して9年制の学校ができたという記事が載ったので、児童委員部会で見学に行きました。

すると、今の八戸市のシステムだと支援員は複数の学年の人をまとめて見るという体制になるのですが、六戸学園の場合は1年生から9年生まで必ず2クラスあって、こういう支援員の先生方がずっと付いていて、きめ細やかなサポートがありまして、かなり不登校が減っているというお話を聞きましたので、これからは支援員をやはり増やしてほしいなと感じていました。以上でございます。

会 長

その他、委員の皆様から、御質問・御意見等はございませんか。

(質問・意見等なし)

会 長

次に、その他の案件といたしまして、事務局から、「合計特殊出生率・出生数・人口の推移」についての説明がございます。

こども未来課

(資料に基づき説明)

会 長

ただ今の説明に対し、御質問・御意見等ございませんか。

(質問・意見等なし)

会 長

本日、予定していた案件は以上となります。

委員の皆様から、案件以外のことで何かございませんか。

委員G

せっかくお時間をいただいておりますので、お願いがあります。

先日テレビを見ていた時に青森県庁が映りまして、その県庁の通りに「こどもへの投資が青森県の未来を拓く」という横断幕がありました。県としても、子ども子育ての事業について大変に熱を入れていると思っています。

八戸市も熊谷市長が掲げる「こどもファースト事業」があることですし、イベントの際でも、市役所の垂れ幕でもいいですし、看板でもいいのですが、子ども子育てに関するスローガンを市民にアピールするというようなことを、ぜひ実践してはいかがだろうかと感じました。

秋のイベントですとか、今年度や来年度の予算でも、そういったことをアピールして、八戸市としても子ども子育てについて非常に熱を入れていると発信していただきたいなというお願いでございますので、よろしくお願いいたします。回答は特に不要です。

会 長

その他、委員の皆様から、御質問・御意見等はございませんか。

(質問・意見等なし)

無いようですので、これをもちまして終了いたします。御協力ありがとうございました。

進行を司会に戻します。

司 会

ありがとうございました。

ここで、次回の会議日程について、事務局より連絡がございます。

事務局

(次回会議日程を説明)

司 会

ありがとうございました。

それでは、これをもちまして、「令和8年度 第2回 八戸市子ども・子育て会議」を終了いたします。委員の皆様、ありがとうございました。